

ポ：高知のよさこい祭りに参加しているチームもいる中で「パレード演舞」を評価してもらえたのは、よさこいチームとして本当に嬉しかったですよね。

受賞演舞は今 Youtube などで見返してもみんな凄く楽しそうに踊っているのが新しく入ったばかりのメンバーさんにはぜひ観て下さい！そして二年目、ぴとうがさらに飛躍した「ハレ、晴れ」

テーマは、どのように決まったんですか？

き：正直なかなか決まらなかった。僕は抽象的なテーマは得意ではなくて。分かりやすい方が良かったんですけど。色々話し合っって、紆余曲折を経て、最終的にIMPの外ですごく寒い中、立ちながら、震えながら決まりましたね。

「ハレ、晴れ」って晴れ晴れとした気持ちっていうのもありますし、ハレの日とケの日で使う「ハレ」の意味もあって。「ハレの日」って結婚や七五三とかのお祝い事ですよね。それを僕たちの中では、よさこい祭りに出ている時は、みんなにとって「ハレの日」と感じてほしい、心から晴れ晴れと踊ってもらいたいと願いを込めました。

ポ：「ハレ、晴れ」が誕生して、そして演舞を象徴するキーワードも生まれましたよね？「よいしょ」というぴとうの世界が、すごく広がっていった年でしたね。

そしてぴとうは目に見える形で大賞も受賞しました。

き：よさこい大阪大会と和歌山のデバ祭ですね。いただきましたね。

ポ：そこは代表としてどうでしたか？チームとして待ってましたと言われたり、賞を頂いたり。きむにいいの中ではどう感じてました？

き：僕の中では予想外でしたね。もちろんみんなが頑張ってるし、チームとしてどんどん盛り上がりつつあると感じてましたけど。色んなチームさんの中で選ばれるというのはなかなか難しいことだと思っていたので。でも、見ていただき、選んでいただけたことは嬉しくもありましたし、頑張ってきたメンバーを誇らしく感じてました。

ポ：やはり、メンバーの笑顔が一番ということでしょうか。

き：今まで演舞のことを聞いてきましたが、きむに自身代表をするなかで、ここだけはなにか、曲げたくないと思っていたところがありましたか？

き：少なかつたかもしれないね。そういう意味では。みんなの意見を聞いてというのはすごくあったので。ぶつかる時もありましたけどね。やっぱり人間なので考え方も違ったり、やりたい方向性も若干違ったりとかもいくらかもあると思うので。その

中で「これがやりたい」って言うたことは意見を貫かせてもらったことは多々あるとは思いますが。

ポ：芯の部分ですね。夢源風人は今でこそ、学生さんとかメンバーの子供が踊るファミリーチームにもなりましたけども、それでもやっぱり大半を占めるのが社会人です。

代表の経験が仕事に何か活きたという経験はありますか？

き：人前で話すことがかなり楽になりました。毎回練習会が終わったら、20人30人、多いときでは50人100人の前で話すんですけど、元からすごくあがり症やし、僕の場合には良いこと言おうとし過ぎたりするので、きちんと伝える機会やありがとうと伝える場面が多くて、人前で話をする力はずいぶんかと思えます。たぶん、きつと。知らんけど。

ポ：何かしら形として社会人の自分にとつてもいい経験になるといふことですか？

き：なります！めちゃくちゃなりますね！

ポ：ぴとうは毎年代表がかわつていく、毎年代表を決めていくチームです。これから代表をと頭の隅で考えているメンバーがいるとは思いますが。先輩代表として、未来を担うメンバーの背中を押すようなアドバイスがあれば聞かせてください。

き：もし、頭の片隅にあるのならば、必ずやっつけてください。

ポ：やっつけて損なことはない。みんなやっばり難しいとか恥ずかしいとか、仕事が。とかいろんな言い訳は、やらなくてもできると思うんですけど、やることによって周りも助けてくれます。自分の成長にもつながります。なので、代表だけでなく、事務局やインストでもいい、作曲でも広報でも何でもいから、是非やっつけてほしいと思います！

ポ：きむには再登板がありますか？

き：再登板！？私は無いですね。もしあるとしたら、誰かやる人のそばで支えてる役サポート役で使いたい。すべての人脈とすべてのお金を使って（笑）

ポ：ということと歴代代表インタビュー第一回はきむにいでした！ありがとうございます。

き：ありがとうございます。

ポ：最後に一言！

き：結婚したいっ！